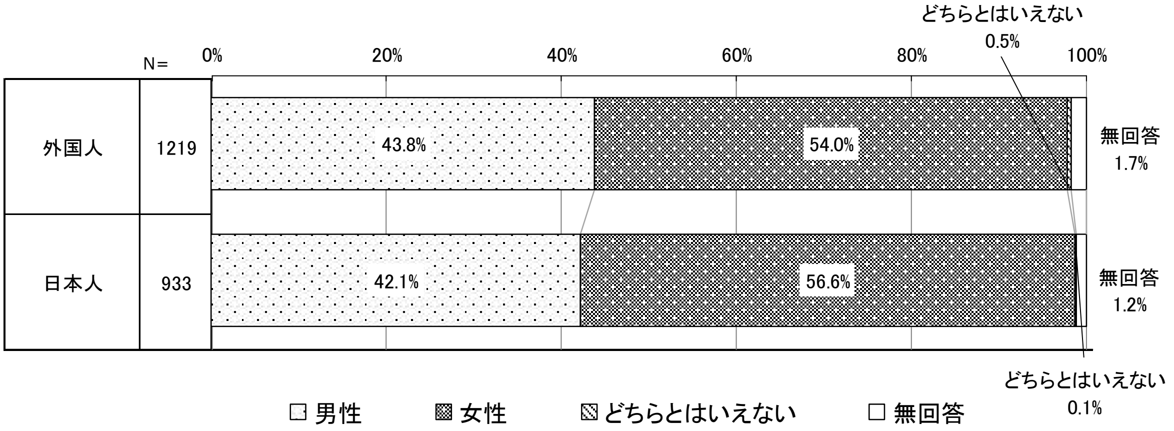
Ⅴ　外国人･日本人　共通設問の比較

1　回答者の属性

（１）性別（外国人：問１、日本人：問１）

外国人は、「男性」(43.8%)、「女性」(54.0%)に対し、日本人は「男性」(42.1%)、「女性」(56.6%)となっており、外国人･日本人ともに「女性」が高い。

図表　性別（単一回答）

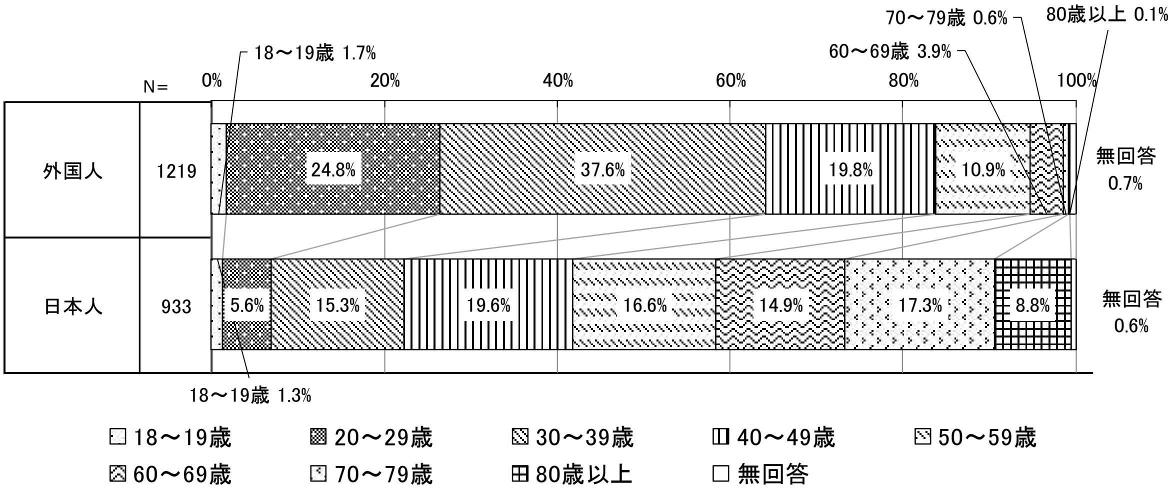


（２）年齢（外国人：問２、日本人：問２）

外国人は、「30～39歳」(37.6%)が最も高かったのに対し、日本人は「40～49歳」が最も高く19.6%となっている。

18～49歳を合計すると、外国人は83.9%、日本人は41.8%となり、外国人の方が年代が若く、日本人は年代が分散している。

図表　年齢（単一回答）

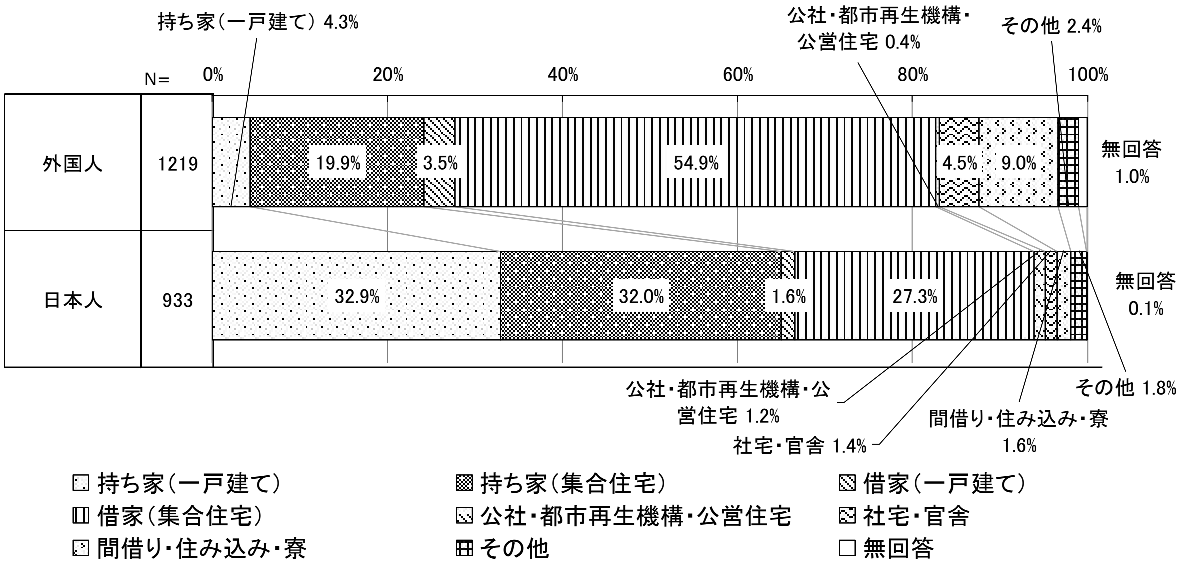


（３）居住形態（外国人：問５、日本人：問４）

外国人は、「借家（集合住宅）」（54.9％）が最も高いのに対し、日本人は「持ち家（一戸建て）」の割合が最も高く32.9％となっている。

「持ち家（一戸建て）」「持ち家（集合住宅）」を合計すると、外国人の24.2％に対し、日本人は64.9％となっている。

図表　居住形態（単一回答）



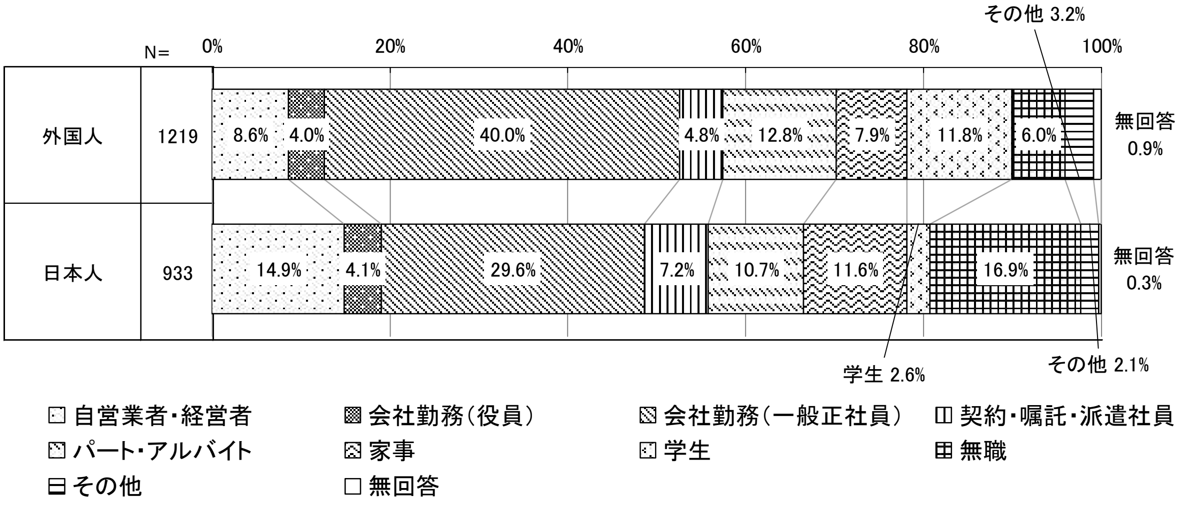
（４）職業（外国人：問６、日本人：問３）

外国人・日本人ともに「会社勤務（一般正社員）」が最も高く、それぞれ40.0％・29.6％となっている。

有職者（「自営業者・経営者」「会社勤務（役員）」「会社勤務（一般正社員）」「契約・嘱託・派遣社員」「パート・アルバイト」の合計）は、外国人（70.2％）、日本人（66.5％）となっており、大きな差異はみられない。

「学生」は外国人の11.8％に対し、日本人は2.6％となっている。

図表　職業（単一回答）



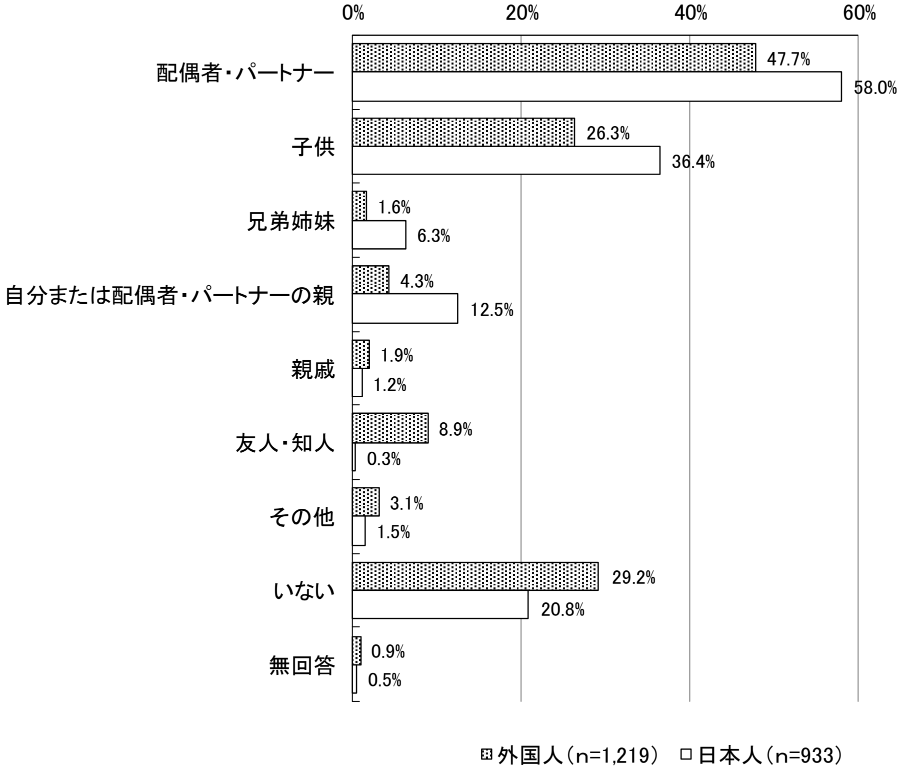
（５）同居者（外国人：問８、日本人：問８）

外国人・日本人ともに「配偶者・パートナー」が最も高く、それぞれ47.7%・58.0%となっている。次いで、外国人は「いない」（29.2%）、日本人は「子供」（36.4%）となっている。

外国人は、「友人・知人」が8.9%に対し、日本人は0.3%となっている。

日本人は、外国人と比較して「自分または配偶者・パートナーの親」「兄弟姉妹」が高い。

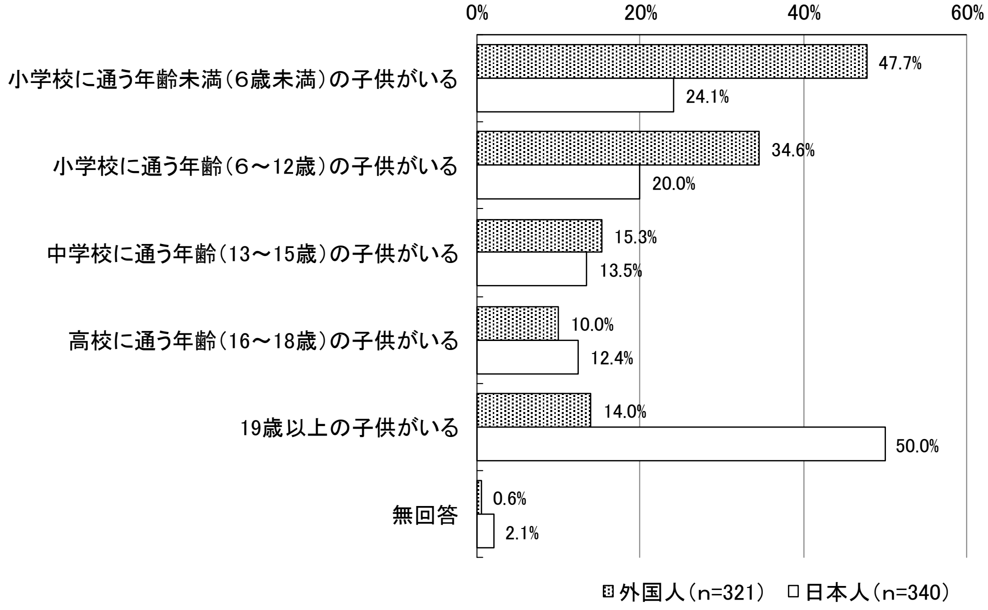
図表　同居者（複数回答）



（６）子供の年齢（外国人：問８－２、日本人：問８－２）

外国人は、「小学校に通う年齢未満（6歳未満）の子供がいる」（47.7％）が最も高いのに対し、日本人は、「19歳以上の子供がいる」（50.0％）が最も高くなっている。

図表　子供の年齢（複数回答）

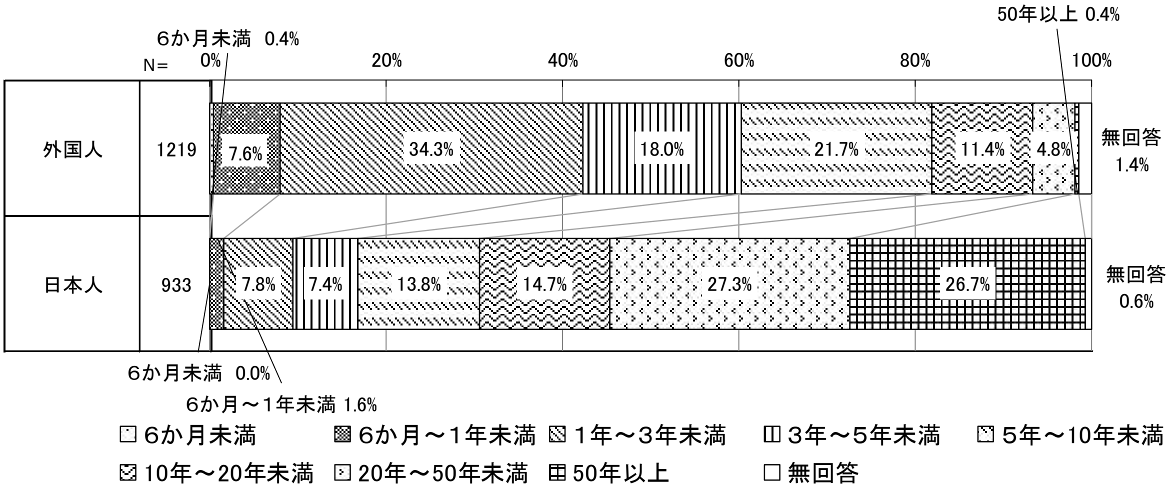


（7）台東区での居住年数（外国人：問 10、日本人：問５）

外国人は、「1年～3年未満」（34.3％）が最も高いのに対し、日本人は「20年～50年未満」（27.3％）が最も高くなっている。

外国人は、居住年数が5年未満の割合が60.3％に対し、日本人は20年以上の割合が54.0％となっている。

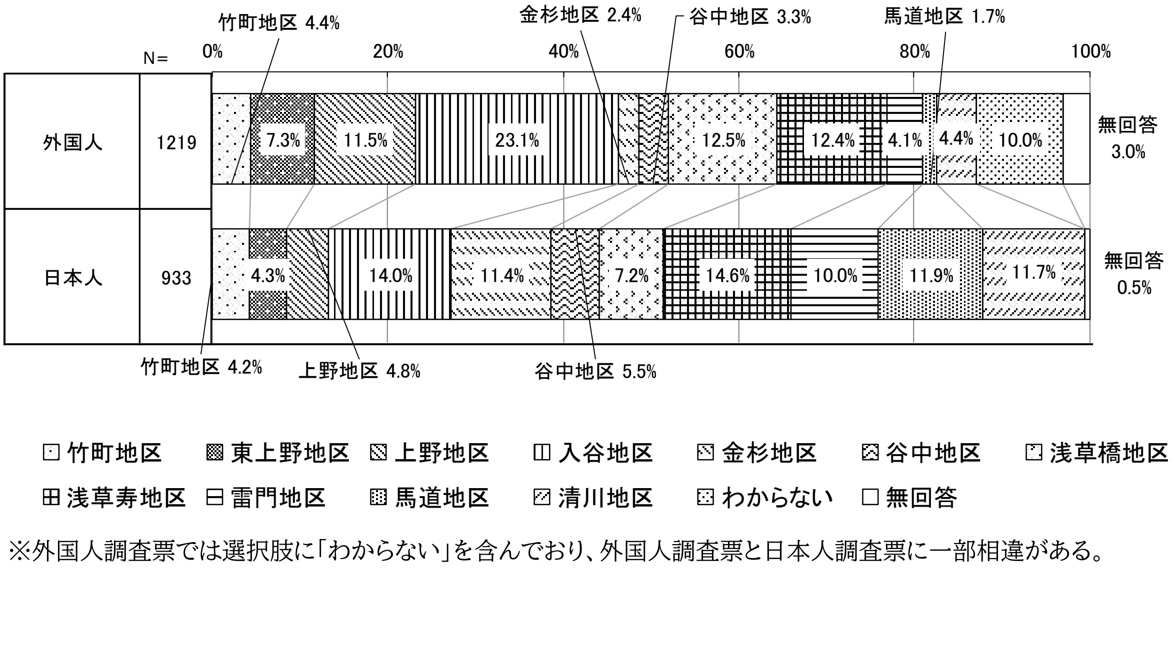
図表　台東区での居住年数（単一回答）



（8）居住地域（外国人：問 11、日本人：問６）

外国人は、「入谷地区」（23.1％）が最も高く、「浅草橋地区」（12.5％）、「浅草寿地区」（12.4％）と続いているのに対し、日本人は「浅草寿地区」（14.6％）が最も高く、「入谷地区」（14.0％）、「馬道地区」（11.9％）となっている。

図表　居住地域（単一回答）



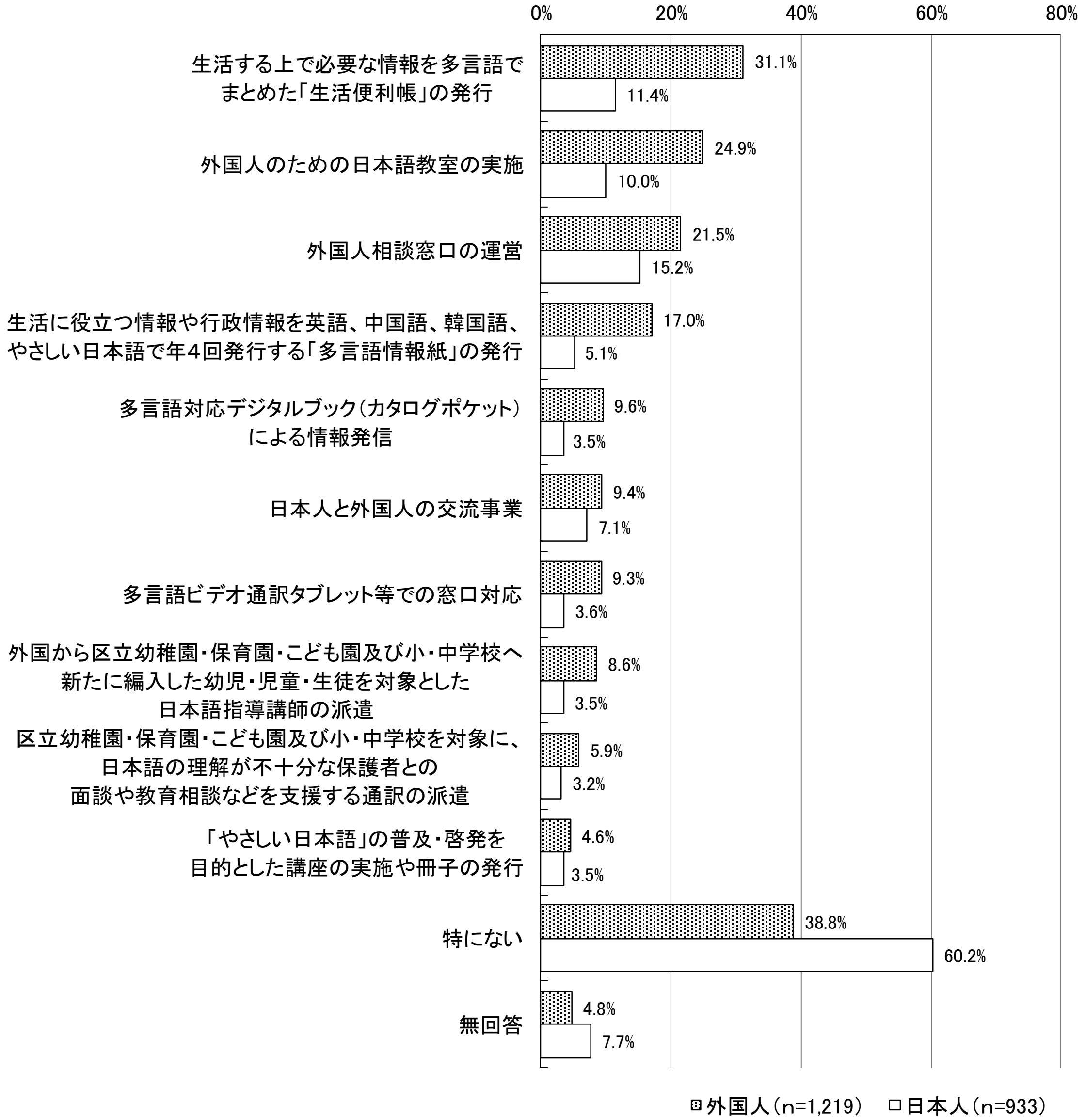
※外国人調査票では選択肢に「わからない」を含んでおり、外国人調査票と日本人調査票に一部相違がある。

2　台東区の取組について

（１）外国人を対象としたサービスや取組の認知度（外国人：問 17、日本人：問 21）

外国人・日本人ともに「特にない」が最も高く、38.8％・60.2％となっている。知っているサービスや取組としては、外国人は「生活する上で必要な情報を多言語でまとめた『生活便利帳』の発行」（31.1％）、日本人は「外国人相談窓口の運営」（15.2％）が最も高くなっている。

図表　外国人を対象としたサービスや取組の認知度（複数回答）



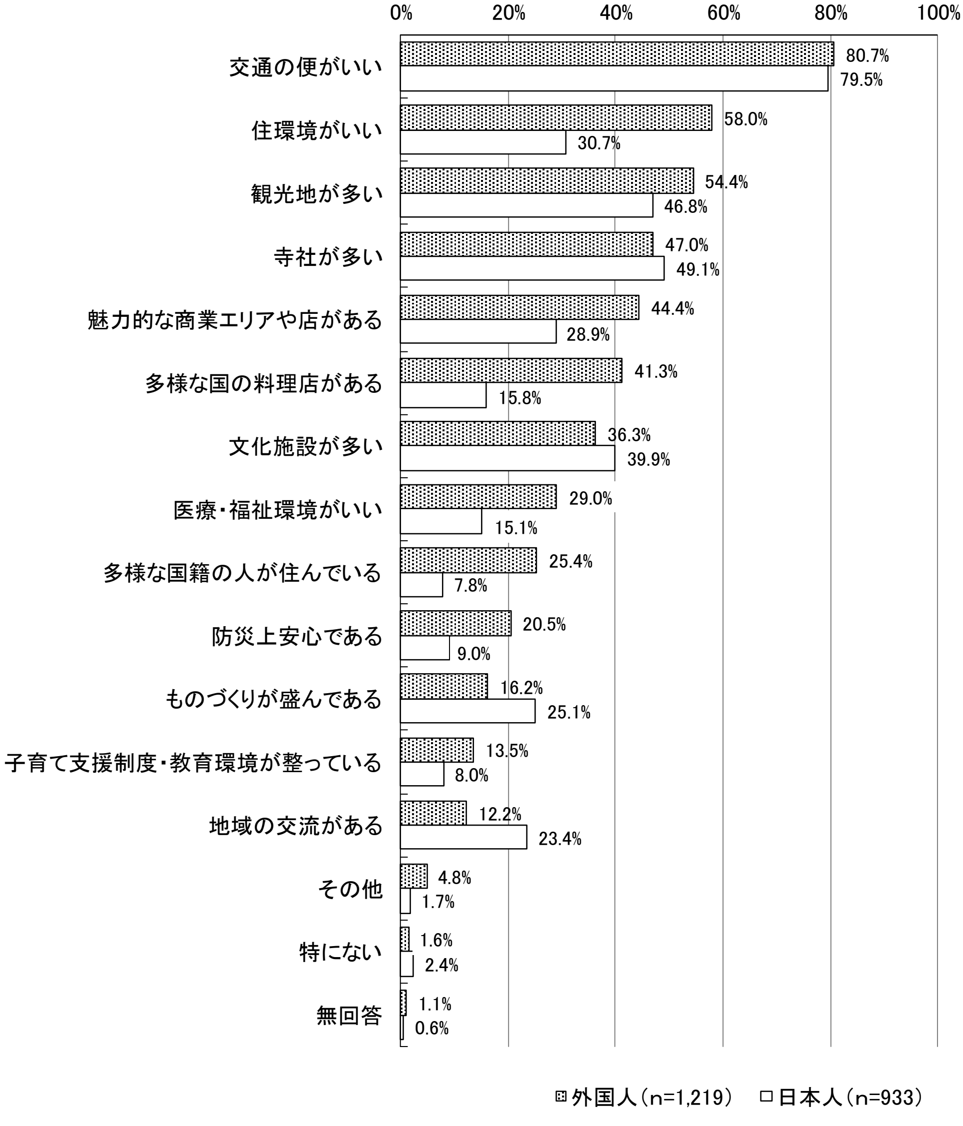
※外国人調査票と日本人調査票の設問文に相違がある。外国人調査票の設問では「台東区で実施している外国人を対象としたサービスや取組を知っていますか」としており、日本人調査票の設問では「台東区が実施している多文化共生に関する取組で知っているものは何ですか」としている。

（２）台東区の魅力（外国人：問 19、日本人：問７）

外国人・日本人ともに「交通の便がいい」が最も高く、80.7％・79.5％となっている。

その他に、外国人は「住環境がいい」（58.0％）、「観光地が多い」（54.4％）が高く、日本人は「寺社が多い」（49.1％）、「観光地が多い」（46.8％）が高くなっている。

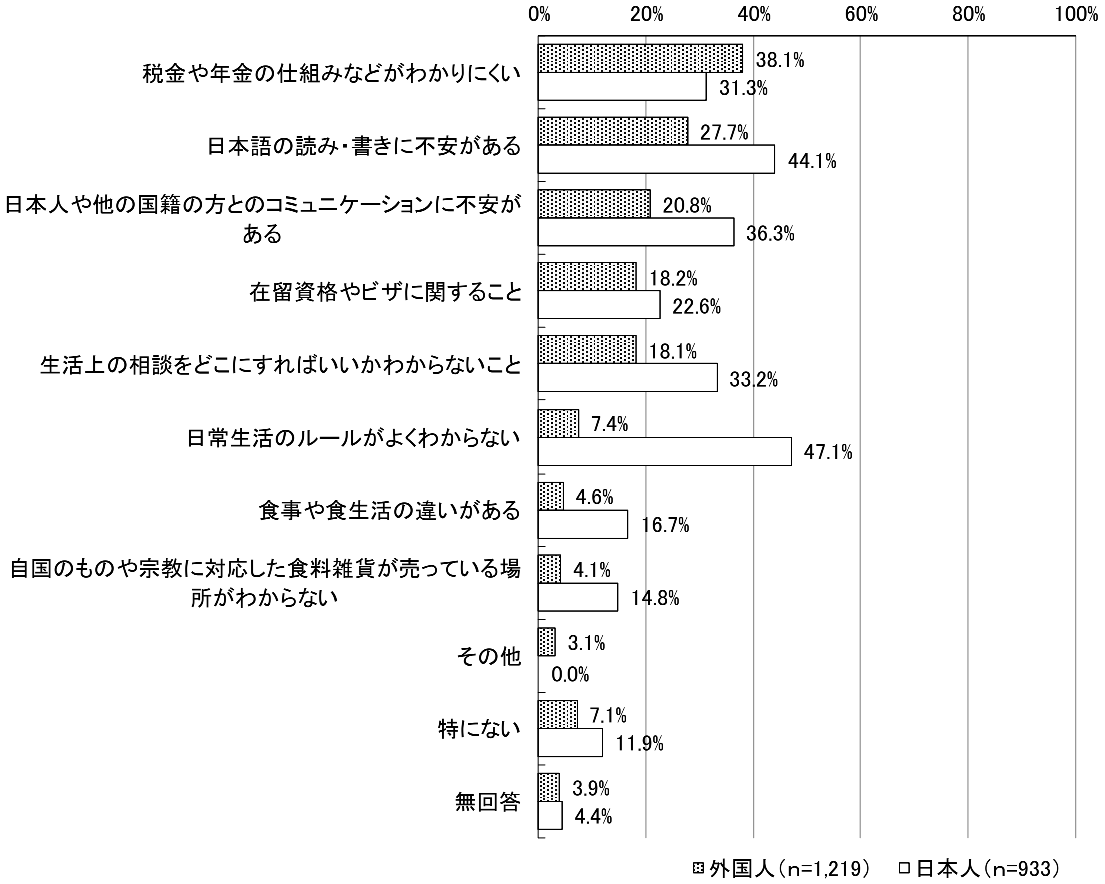
図表　台東区の魅力（複数回答）



（３）日本での生活で、外国人が困っていることや心配なこと（外国人：問22、日本人：問16）

外国人は、困っていることや心配なこととして「税金や年金の仕組みなどがわかりにくい」（38.1％）、「日本語の読み・書きに不安がある」（27.7％）、「日本人や他の国籍の方とのコミュニケーションに不安がある」（20.8％）を回答する割合が高くなっているのに対し、日本人が思う外国人が困っていることや心配なことは、「日常生活のルールがよくわからない」（47.1％）、「日本語の読み・書きに不安がある」（44.1％）を回答する割合が高い。困っていることに対して、外国人と日本人の認識に差異があることがわかる。

図表　日本での生活で、外国人が困っていることや心配なこと（複数回答）



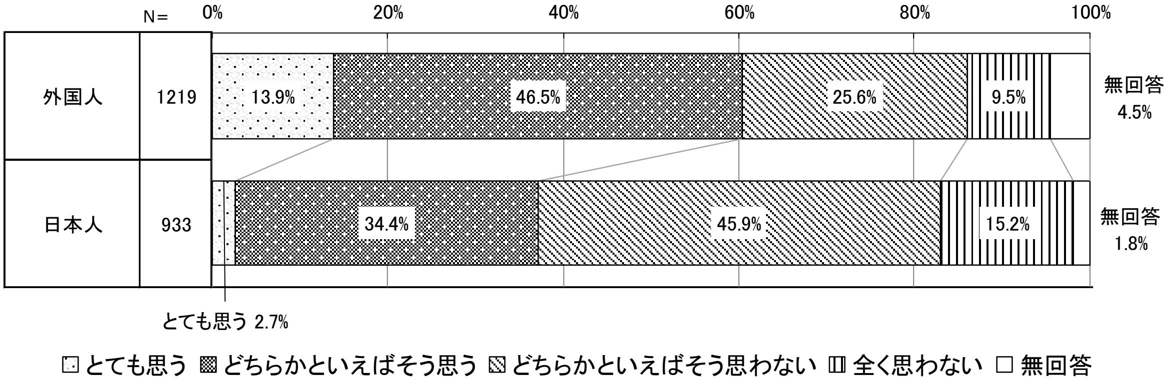
※外国人調査票と日本人調査票に一部相違がある。外国人調査票の設問では「日本での生活で、困っていることや心配なことはありますか」としており、日本人調査票の設問では「地域に暮らす外国人が困っていたり、不安を感じていることは何だと思いますか（あるいは何ですか）」としている。また、外国人調査票では、「住まいのこと」「地域活動のこと」「病院や医療のこと」「就労・事業経営の支援のこと」「災害時のこと」について、選択肢が細分化されており比較できないため、「日常生活」の項目のみ比較している。

3　地域に暮らす外国人と日本人とのかかわりについて

（１）外国人と日本人の地域における相互コミュニケーション（外国人：問31、日本人：問11）

地域の中で日本人と外国人が互いにコミュニケーションをとれていると思うかについては、「とても思う」「どちらかといえばそう思う」割合の合計は、外国人は60.4％に対し、日本人は37.1%となっている。一方、「全く思わない」「どちらかといえばそう思わない」割合の合計は、外国人は35.1%、日本人は61.1%となっている。

図表　地域の中で外国人と日本人のコミュニケーションがとれているか（単一回答）

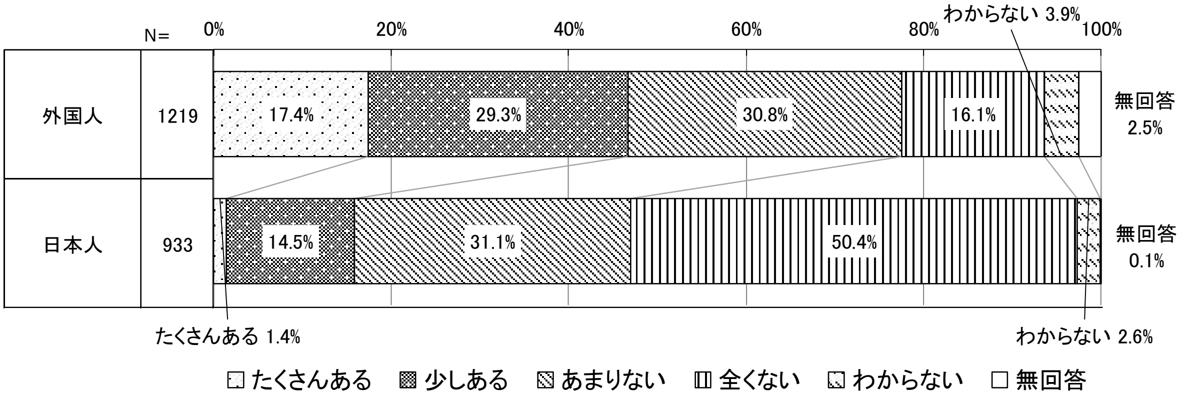


（２）地域に暮らす外国人と日本人が交流する機会（外国人：問32、日本人：問12）

地域に暮らす日本人（または外国人）と交流する機会については、「たくさんある」「少しある」割合の合計は、外国人は46.7%に対し、日本人は15.9%となっている。

日本人は「全くない」が最も高く、50.4%となっている。

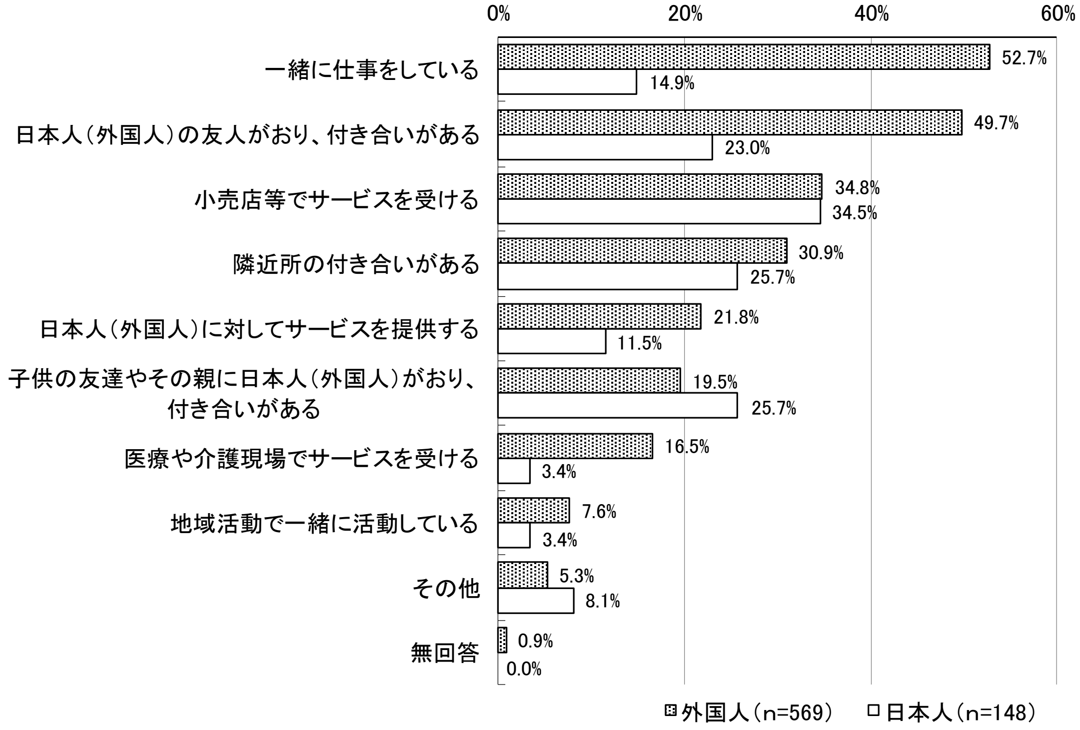
図表　地域に暮らす外国人と日本人が交流する機会（単一回答）



（３）地域内で外国人と日本人がかかわる場面（外国人：問 32－2、日本人：問 12－2）

地域に暮らす外国人・日本人との交流の機会が、「たくさんある」「少しある」と回答した人に、地域内で外国人と日本人がかかわる場面について聞いたところ、外国人は、「一緒に仕事をしている」（52.7%）が最も高く、次いで、「日本人（外国人）の友人がおり、付き合いがある」（49.7%）、「小売店等でサービスを受ける」（34.8%）となっている。日本人は「小売店等でサービスを受ける」（34.5%）が最も高く、次いで、「子供の友達やその親に日本人（外国人）がおり、付き合いがある」「隣近所の付き合いがある」（ともに25.7%）となっている。

図表　地域内で外国人と日本人がかかわる場面（複数回答）



※外国人調査票と日本人調査票に一部相違がある。外国人調査票の選択肢を基本として記載し、相違箇所に（　）として日本人調査票の文言を記載している。